

指導のねらい

物語における登場人物の実体的な関係や構造的な関係をとらえたり、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深めたりすることができるようにする。

課題の見られた問題の概要と結果

A [3] 文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読む。正答率65.3%（※本パンフレットにおける正答率は、抽出調査のため推計値であり、誤差±0.2%程度の精度となっています。）

学習指導要領における領域・内容

〔第5学年及び第6学年〕 C 読むこと

ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと。

授業アイデア例

例1 は課題を取り立てて指導する場合、例2 は課題の解決を図る単元を通して指導する場合の具体例

例1 物語における登場人物をカードに書き出し、それらを並べ替えることで、実体的な関係や構造的な関係をとらえる。

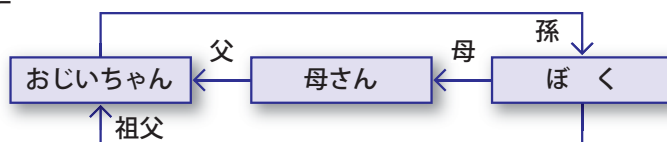
1 物語を読み、登場する順番に人物をカードに書き出す。
例：平成22年度調査 A [3] 『たったひとりの伝説』 斉藤洋作

2 書き出した登場人物のカードを、物語を設定する上での実体的な関係（家族、同級生など）が分かるように並べ、それらの相互関係を説明する。

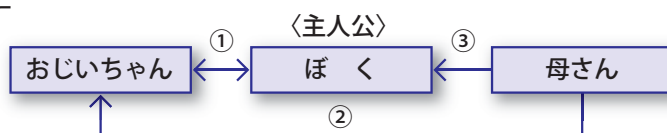
3 上記2で並べたカードを、主人公を軸とした構造的な関係（仲間、好敵手など）が分かるように並べ替え、それらの相互関係を説明する。

4 主人公の視点、あるいは、主人公を取り巻く他の登場人物の視点から感想をまとめ、交流する。

【登場人物のつながりが分かるようにカードを並べたもの】



【主人公を軸とした人間関係が分かるようにカードを並べ替えたもの】



〔①、②、③〕が示す関係の説明

- ① 「おじいちゃん」は、「ぼく」を孫として純粋にかわいがっている。だから、「ぼく」は、「おじいちゃん」に対して気軽に接することができる。
- ② 「母さん」は、「おじいちゃん」に対して、敬う気持ちをもっている。
- ③ 「母さん」は、「おじいちゃん」の存在を意識して、「ぼく」に厳しく接している。

例2 朗読の工夫について相互評価することで、登場人物の性格や心情、相互関係についての理解を深める。

第一次

- これまでの朗読の仕方について振り返り、学習課題「朗読の工夫について互いに評価しよう」を設定する。
- 例：平成20年度調査 B [2] 『大造じいさんとガン』 椋鳩十作

第二次

- 物語を読んで、登場人物の性格や心情、相互関係をとらえる。
- グループごとに朗読する場面を決め、台本を書いて練習する。

第三次

- グループごとの朗読を聞き、解釈の仕方について話し合ったり、声の出し方について評価したりする。

【グループごとに書いた台本(例)】

場面	人物 (朗読する人)	セリフ	読み方の工夫	
			声の出し方	理由
残雪を見送る場面	大造じいさん (Aさん)	「セリフ」については、登場人物による会話文だけでなく、地の文も取り上げる。	はっきりと呼びかけるように	ずっと敵対関係でにくく思っていた残雪のことを、正々堂々と勝負するのにふさわしい相手だと認め、来年の勝負を楽しみにしていることを表したいから。
	ナレーター (Bさん)		ゆっくりと落ち着いて	大造じいさんが今までの残雪との関係を思い返したり、これからの残雪との関係を想像したりしていることを表したいから。



「読み方の工夫」については、読み取った登場人物の性格や心情、相互関係を「理由」として、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などの「声の出し方」に反映できるようにする。